

# 地域がん登録を用いた県内がん患者の医療機関受診に関する動態調査 —診断時住所の医療圏と主治療医療機関の所在医療圏の関係について

柴田 亜希子\*      松田 徹\*

## 1. はじめに

がん医療においては、治療医療機関を集約化し、その治療内容と成績の均てん化が求められている。一方、地方では、治療内容や治療成績に関わらず居住地に近い医療機関を受診する傾向があり、治療医療機関の集約化は容易ではないと考えられている。

山形県は、村山、最上、置賜、庄内の4医療圏に区分されており、それぞれの医療圏がカバーする人口は、各々約57万人、9万人、24万人、31万人である。平成19年現在、がん診療連携拠点病院は、村山医療圏に3カ所、その他の医療圏に1カ所ずつ指定されている。庄内医療圏には既指定のがん診療連携拠点病院に相当する病院が他に1カ所あり、最上・置賜医療圏には既指定の病院以外、拠点病院の候補はない。

本報告では、診断時住所（居住地）の医療圏と主治療医療機関の所在医療圏との関係を、患者特性別に明らかにすることを目的とした。

## 2. 対象と方法

集計対象は、2001–2003年に診断された登録患者21,450例のうち、上皮内がんおよび大腸mがん(869例)、DCN例(4,200例)、再発時のみの登録(272例)、疑診登録(7例)を除外した16,102例(75.1%)。主治療医療機関は、地域がん登録標準データベースシステムでは治療医療機関決定の

ルールに従って半自動的に決定される。主治療医療機関不明例は集計対象の10.3%であった。以上の集計対象を用いて、1. 居住地の医療圏が主治療医療機関の所在医療圏と同じかどうか、以下同様に、2. 性別、3. 年齢階級別(0-19、20-64、65-74、75-79、80-)、4. 進行度別(限局、領域、遠隔転移)、5. 部位別(胃・大腸・肝臓・乳房・肺とその他の部位6区分別)6. 発見経緯別(がん検診・人間ドック、通院中、その他・自覚症状)7. 治療法別(手術、化学療法、放射線治療)で特徴があるかを検討した。

## 3. 結果

居住地の医療圏と主治療医療機関の所在医療圏が一致する割合で評価した。全体として、居住地が村山と庄内医療圏の例ではほぼ100%近く一致しており、最上医療圏で最も一致割合が低かった(71.1%)(図左上)。性別による違いは明らかでなかった(図左上)。年齢階級別では、最上や置賜医療圏のような一致割合の低い医療圏では、年齢が若いほど居住地と異なる医療圏で治療を受けている割合が高かった(図右上)。進展度別では、明らかな違いを認めなかったが、置賜医療圏では遠隔転移例ほど居住地と同じ医療圏で治療を受けている割合が高かった。部位別では、村山と庄内医療圏では部位による居住地と治療医療機関の医療圏に明らかな違いを認めなかったが、最

\*山形県立がん・生活習慣病センター  
〒990-2292 山形市大字青柳1800

上と置賜医療圏では違いがあった(図左下)。特に、肝臓やその他の部位のような罹患数の少ないがんにおいて居住地と治療医療機関の所在医療圏が異なる割合が高かった。発見経緯別では、明らかな違いを認めなかったが、最上医療圏では通院中例ほど居住地と同じ医療圏で治療を受けている割合が高かった。治療法別では、村山と庄内医療圏では治療法による居住地と治療医療機関の医療圏に明らかな違いを認めなかったが、最上と置賜医療圏では違いがあった。(図右下)。特に放射線治療を受けた症例で、居住地と治療医療機関の所在医療圏が異なる割合が高かった。

#### 4. 考察

本集計結果から、小さい医療圏に居住する人ほど、居住地域以外の医療圏で治療を受ける割合が高いことが分かった。この理由として、居住地の医療圏のがん医療機関数が足りない、がん治療内容が充足していない、などが考えられる。年齢が若い人、

罹患数の少ない部位のがん、および各医療圏に放射線治療器があるにも関わらず放射線治療例において居住地と異なる医療圏の医療機関で治療を受ける割合が高かったことは、居住地に拠点病院相当の医療機関が1カ所しかなく、様々な要因でその医療圏では不足と思われる場合は、医療圏を越えて患者が移動することがあり得ることを示している。一方、本集計結果から、居住地に拠点病院相当の医療機関が複数存在することが、拠点病院に関わらず居住地域と同じ医療圏の医療機関を受診する行動と結びついている可能性も示唆された。

#### 5. 結語

地域がん登録資料を用いて、がん患者の居住地の医療圏と主治療医療機関の所在医療圏との関係について検討した。今後、このような受療動向と、2次医療圏に概ね1カ所に指定されているがん診療連携拠点病院の機能強化や機能分化の必要性を関連づけて考える必要があるだろう。

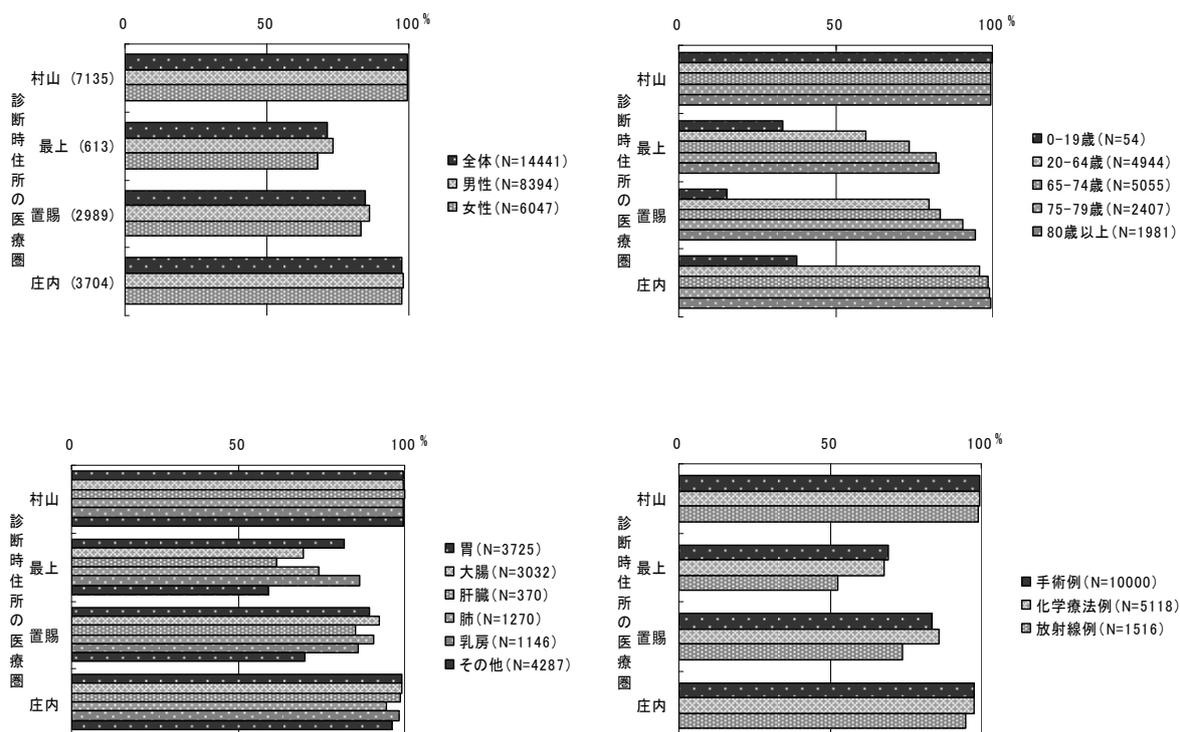


図 診断時住所の医療圏と主治療医療機関の所在医療圏が同じ割合  
 (左上:性別、右上:年齢階級別、左下:部位別、右下:治療法別)